

● 7月選評

小島なお

夏 脳から植物園がはみ出す

∴

千葉羅点

植物がいつせいに繁茂する夏。蔓を伸ばし、葉を茂らせ、花を咲かす。脳内からはみ出したそれらの欲望と渇きの重量を掲げて、人々はふらふらとゆく。

万緑を背に

テールスープを飲み干して

∴

木村 菜智

一面の緑。「万」は「すべて」の意味を持つ。背景に「すべて」を置きながら、牛の尾の「部分」のテールスープを飲む奇妙でグロテスクなゆがみ。

大きな物語ミニスカ我サブレー

∴

牛田 悠貴

鎌倉の鳩サブレーに明治までさかのぼる物語があるように、人にはそれぞれの物語がある。ミニスカートを履いた我のサブレー？ あり得るのかもしれない。

匙ハコワス蜜豆世界観コワス

∴

絵巻

食べる前がいちばん美しい器のなかの甘味。ひと匙にたちまち世界の調和は壊れてしまうとわかりながら。「コワス」のなかに見いだされる「怖」。

ネクタリン齧る

博愛

夜は淋しく

…

ほしはかせ

ネクタリンのみずみずしい甘さは、創世記の林檎のようで、古事記の桃のようでもある。すべての人を偏りなく平等に愛そうとするほど淋しくなる現世のこと。

外側のカトラリーから使われて

私の羽は最初に消えた

…

小武頼子

コース料理のテーブルマナー。肩甲骨から左右に生えた羽は、私のいちばん外側にあたる部位なのだ。羽を喪えば、あとはもう食べられるのを待つばかり。

暖色系の色を除外していつて

寒色系の色で選んで

あなたも、できるよ

…

山口 みな

なにが「できる」のか。あらゆる物事は基礎的なルールのもとに成り立っている。糸の色を選び分けるように、隣の人を真似ているうちに、きっと「できる」。

顔なくて見晴らしのよい台でした

…

綿貫 文

展望台から景色を眺めるとき、自身が台の顔になっている感覚がある。人間の身体も物見台のようなもので、顔がなければもっと世界が見えるのかもしれない。

逆鱗を思い出せたら

滝壺をいま一斉に噴き出す民話

：

斎建大

逆鱗の由来である一枚だけ逆さに生えた竜の鱗。何かを思い出す行為は、逆鱗に触れることと似ているのかもしれない。記憶の滝を激怒し、遡ってくる竜。

でもこれは僕の四葉のクローバー

説明書とか読まないところ

僕のずぼらなところは、一面の三つ葉のなかにある四つ葉だという。欠点のように見えながら、僕のボーナスポイントとして隠されている一草がそよぐ。